

泌尿器科

● スタッフ（平成30年10月1日現在）

診療科長 大野 芳正
 医局長 佐竹 直哉
 病棟医長 平澤 陽介
 外来医長 榎藤 立男

医師数 常勤 15名
 非常勤 5名

● 診療科の特徴

1. 特色

外来は午前中3診察室にて診察を行っており、午後は初診患者の診察を行っている。一日の来院患者は約120人となっている。病棟規定数は45床で稼働しており、診療はスタッフとチーフレジデントを中心としたチームによって行っている。1週間に15-20件の手術が組み立てられており、泌尿器科小手術から前立腺癌、腎臓癌、膀胱癌に対するロボット支援手術や腹腔鏡手術、開腹手術などの手術をバランスよく行っている。

2. 主な診療対象疾患

1) 悪性疾患

腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣腫瘍、陰茎癌、後腹膜腫瘍など

2) 良性疾患

前立腺肥大症、尿路感染症、尿路結石症、副腎腫瘍、水腎症、尿管狭窄、急性陰嚢症、尿失禁、精索静脈瘤など

● 診療体制と実績

泌尿器科で2018年に行われた手術について図1にまとめた。特に2006年に国内で初めて前立腺癌に対しダヴィンチを用いたロボット支援下前立腺全摘除術を導入し、現在に至るまで国内随一の手術実績をおさめている（図2）。また、前立腺癌の治療では、ロボット手術だけでなく、小線源治療、強度変調放射線治療（IMRT）、薬物療法、ラジウムによる骨転移治療など、種々の治療が可能である。腎臓癌、腎盂尿管癌に対しては腹腔鏡下腎（尿管）摘除術を、小径腎癌に対してはロボット支援下腎部分切除術を行っている。一方、浸潤性膀胱癌においても、2018年度より保険収載されたロボット支援下膀胱全摘除術を導入している。また尿路変更術においては、機能温存を目指した自然排尿型代用膀胱造設術を積極的に行っている。患者の希望やQOLを考慮し、様々な治療が行えるよう体制を整えている。またPSA高値を認め、MRI画像検査にて前立腺癌が疑われる場合には、当施設では先進医療としてより正確な診断が可能であるMRI撮影および超音波検査融合画像に基づく前立腺生検法を行っている。

図1 2018年の手術実績

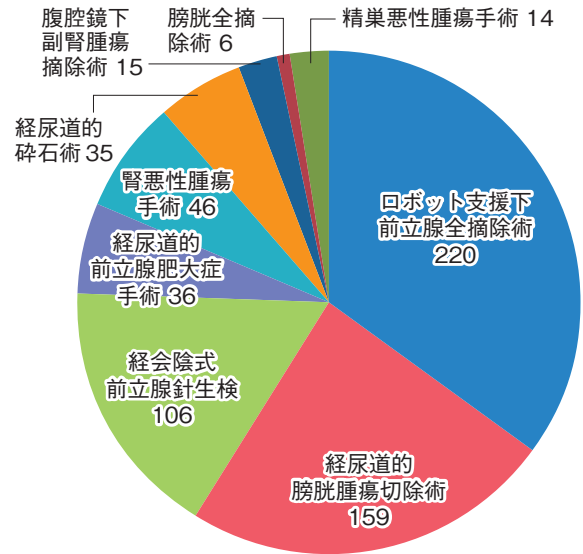


図2 ロボット支援下前立腺全摘除術の過去6年間の推移

